



Press Release
HBC 北海道放送株式会社

※「ガッチャンコ」とは…
「くっつける」「ひとつになる」という意味で使われる言葉。
HBCが、人と人、地域と地域を「つなぐ」存在でありたい
という願いがこめられています。

2021年9月16日

HBC制作ドキュメンタリー 「ネアンデルタール人は核の夢を見るか ～高レベル放射性廃棄物の行方～」 「地方の時代」映像祭 入選！

HBC北海道放送が制作したテレビドキュメンタリー「ネアンデルタール人は核の夢を見るか～高レベル放射性廃棄物の行方～」が、2021年「地方の時代」映像祭の放送局部門で入選しました。

この後、入選作品9本の中からグランプリ、優秀賞などの各賞が決まることになっていて、11月13日の授賞式で発表されます。

【番組名】「ネアンデルタール人は核の夢を見るか ～高レベル放射性廃棄物の行方～」

【放送日時】 5月29日(土)午後4時～午後5時

【内容】

2020年8月、原子力発電所から出る高レベル放射性廃棄物、いわゆる核のごみの最終処分場選定の応募に向けて、北海道寿都町が動き出した。調査応募の賛否で町が分断されていくなか、町長は「肌感覚では賛成が多い」として、わずか2か月で応募に踏み切った。

番組では地層処分に至るまでの最終処分の原点にさかのぼり、1980年代に秘密裏に行われた調査や元職員の証言のほか、最終処分場の適地をめぐる新たな動きを伝えた。

寿都町の吉野寿彦さんは、長年の友人だった町議会議長らのリコール活動を始めた。大串伸吾さんは反対の立場から、役場を辞める決断をした。大串さんの息子は住民説明会で、町長に率直な質問をぶつけた。平穏に暮らしていた町民たちは、いま核のごみとどう向き合うのか。

地質や地震の専門家は、「地下の危うさ」を指摘する。10万年後まで私たちは責任をもって核のごみを処分できるのか。未来に残せない宿題が、突きつけられている。

※番組はHBCニュースの公式ユーチューブで視聴することができます。

◆お問い合わせ：HBC北海道放送経営企画局広報CSR部

(Tel:011-232-5821)